

議 長
確認印

総務常任委員会会議録

1 日 時	開会 平成 28 年 8 月 2 日 13 : 30 閉会 平成 28 年 8 月 2 日
2 場 所	議員控室
3 出席委員	鈴木茂、七宮広樹、藤田一男、割貝寿一、吉田広明、下重義人、鈴木孝則
4 欠席委員	なし
5 出席要求者	なし
6 職務出席者	議会事務局長
7 説明員	健康福祉課長、学校教育課長、生涯学習課長
8 付議事件	第 1 子育て支援事業について

副委員長（七宮委員） 開会
委員長（鈴木茂委員）あいさつ

第 1 子育て支援事業について
委員長：町の子育て支援事業については、これまで現場調査を実施し、具体的説明はその都度聞いてきたが、最終的に担当課長の説明を聞いて、まとめとしたい。
資料が提出されているのでまず説明を求める。
生涯学習課長：昨年の実績本年度の主な事業について整理した。
健康福祉課長：資料は特にない。現地調査のとおりである。
委員長：質疑を行う。最初は、なかよしルームから始まり、図書館のおはなし会で終わった。記憶が新しいのでおはなし会に関して。
吉田委員：休みということもあって 65 人の参加だった。通常時の参加人数は。
生涯学習課長：25 年は、冬 60、夏 50 春 50、26 年 夏 90、冬 50 春 60、27 年 夏 70、冬 50 春 50 であった。
委員長：スペース的に狭くないか。
生涯学習課長：いっぱいになった。学童保育の方に来ていただいているため参加人数は多い。
委員長：経費は。
生涯学習課長：資料は 3p である。全体の業務委託料の中に含んでいる。その額は、委託料はほとんどが人件費なので仕様書によって行うべき業務としているので区分していない。
委員長：子育てサロンは健康福祉課所管で場所を図書館と公民館としている。狭いと感じるが。
健康福祉課長：図書館は狭いのでなるべく小さい子供を対象としている。
委員長：日程表では月曜日の行事が少ないが理由はあるか。
生涯学習課長：かつて公民館は月曜日が休館日だった。その慣習で少ないのではないか。現在は、夜間を除いて開館している。
委員長：これまでの流れでそうなっているのか。毎日やってほしいという人もいた。
吉田広明委員：土日開催がない。検討は。

健康福祉課：現在のところ要望は確認していない。確認してみる。

委員長：図書館、公民館とも幼児用のトイレがない。欲しいという人がいた。できればあったほうがよい。

（おむつをしている子供が多いのでは）

吉田広明委員：遊具が少ないと聞いている。木工組合などに委託しては。

委員長：ウッドスタート事業で木工組合に機械を買うことになっている。

健康福祉課長：1歳の誕生日に木のおもちゃをプレゼントすることになっている。先に開いたイベントで木製品のおもちゃが多くあった。それほど大掛かりなものはなかった。数か多かった。木工組合で対応できるのではないか。

吉田広明委員：小山市の例を見たことがあるが、遊具が充実している。遊具が少ないから、他の町村に行ってしまうとの声も聞いている。研究してみてもどうか。

健康福祉課長：常設の場があれば共用できる。子ども園や多世代交流センターの建設で対応できると考える。現在は間借り状態である。

委員長：似たような子育て支援を別々にやっている。所管の統一が図ればよいと思うが。

生涯学習課長：一般質問等で以前から指摘されている。25年度は、健康福祉課との調整のためなかよしルームを一時休止した。しかし、利用者の要望で復活している。利用者からの要望は、毎日やってほしいということで、その中から都合で参加日を決めるということのようだ。

七宮委員：健康福祉課と公民館で事業をやっているが、よくわからないというのが実感。保護者からは、助かっているという声を聴く、保護者通しの交流など、他市町から来たお母さんからは塙は良くやっているという声も聞く。木育事業では約千人、人が来たように、このような場を設けたり、木の町はなわで自前の子育て支援は良い。また、間借りでなく一つの場所であればよいという声も聞く。

委員長：参加者はどこから。

健康福祉課長：資料がないのでわからないが、場所に近い方が多いと思う。

吉田広明委員：棚倉では、他用村から来ても受け入れるとしているが、本町はどうか。ダメと言われた人がいると聞くが。

健康福祉課長：制約は特にないと思うが、確認する。

生涯学習課長：公民館等では町内と限定している。

委員長：そのほか質疑はないか。

下重委員：なかよしルームの年間予定表の中で、調理教室的なものがある。衛生面はどうなっているのか。

生涯学習課長：調理等は調理室を使うので問題はない。いつも行う畳の部屋では行わない。

委員長：そのほか質疑はないようなのでこれで終わる。

（説明員退席）

委員長：自由討議を行う。

委員長：5回の現場視察と本日の質疑を受け自由討議を行う。

藤田委員：参加者が少ないと感じる。

割貝委員：近くの人だけか。

委員長：内容によっては多い日もある。全体的にはすくないと思う。おはなし会は多い。休み中に行っていることもある。

吉田広明委員：常豊小学校の統廃合問題と絡めその有効利用として施設の充実は考えられる。

藤田委員：公民館と健康福祉課が所管しているが、一本化も検討すべき。

（棚倉では子ども課ができたという人あり。）

藤田委員：空き教室の利用等で対応可能なら進めるべき。

七宮委員：行政サービスの充実によって若い人たちは他町に行くという。埜は充実していないと。移住ということを考えた時に子育てしやすい、移住しやすい状況を作って行きたい。特に、若いお母さんはそのような考えを持っている。

委員長：郡内で子育て支援に関して一番劣っているのが埜町という声を聞く。町民が言っているのだが、調査してみるとそれも否めない状況に感じる。このままでは、定住人口はさらに減少しかねない。

藤田委員：表郷の鶴子山公園なんかも大勢の人が来る。あの程度でもこんなに来るのかと感じる。

委員長：今は、屋外の遊び場から屋内の遊び場がはやりのようだ。そういうところに母親は連れて行く。

（震災の影響もある。体力が低下しているという人あり。）

藤田委員：我々子どものころは外を走り回っていた。

委員長：遊具があればいいと。遊園地があればいいという人もいる。

吉田広明委員：郡内に同じものでなく別な施設を、ある程度連携して作ればいいと思う。

藤田委員：広域圏での対応も必要か。

吉田広明委員：インドアの遊びが主流になっているが、そのためか転んで痛い思いをしたり、火を使ったりすることが少ない。アウトドアというか、もっとそのような点を大切にしないと。

委員長：親がアウトドア派だと子どももそうなる。

七宮委員：地域の子は地域で育てる。町を担う子供たちをしっかりと育てるのが我々の使命である。

吉田広明委員：外国人はスコップの使い方など知っているが、日本人はそうっていない。その差が歴然としている。

藤田委員：参加者が少ない。施設の充実、遊具の充実が必要。その方向に行ってもらいたい。

下重委員：施設の充実が必要

委員長：施設の充実がスタートである。国見町で道の駅をつくるが、その場に子供の施設をつくるという。

委員長：各種団体と意見交換を委員会としてやっていきたいと思う。他議会でもやった例がある。子育て関連の団体、高齢者等福祉団体との意見交換をしていきたいと思う。そのようにしたいがよいか。こちらから申し入れをしたいと思う。テーマを絞って行うことが必要か。

（所管の範囲から外れないようにすべきという人あり。）

所管にあった各種団体との意見交換を進めたい。

七宮委員：東京立川市の幼稚園の活動のテレビ番組がインターネットで公開して売るのでそれを委員で視聴したいと思う。

委員長：よいと思う。いったん休憩する。

(休憩)

(インターネット放送視聴) 約 20 分 ユーチューブ 情熱大陸

委員長：議事を終了する

副委員長閉会

埴町議会委員会条例第 27 条の規定により署名する。

平成 年 月 日

総務常任委員長